



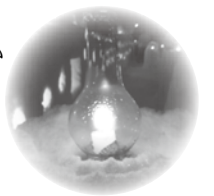
## 今年も力作が勢ぞろい!!



今年で第10回目となる積丹町商工会（山本俊三会長）主催の「しゃこたん夢あかり」が2月9日に開催されました。

町内の家庭や事業所の玄関前には、アニメのキャラクターなどの雪像、セロハンやスプレーなどで鮮やかに色づけられたスノーキャンドルなど、今年も趣向を凝らした力作が勢ぞろい！午後5時の花火の合図で、約3,500本のろうそくに火がともり、暖かな優しい光が町を包み込みました。

また、美国町の中央交差点のメイン会場では、同会女性部によるかぼちゃスープの無料提供やあんまん、肉まんの販売が行われたほか、同会青年部が特設会場を設け、ビールやおでん、焼き鳥などを提供し、たくさんの人で賑わいを見せていました。



## 夢あかり協賛イベント「子ども縁日」も大盛況に!!



夢あかり開催に先立ち、一般社団法人積丹やん集小道協議会（別所範一代表理事）による協賛イベント「子ども縁日」が午後4時からお宿かさいで行われました。

子どもたちは、お目当ての景品を狙って射的やくじ引き、型抜きに挑戦。子どもたちのわいわいと賑やかな声が響いていました。



◀当日、午後1時から商工会前で行われた、スノーキャンドル制作。ボランティア30人が参加し約200個のスノーキャンドルが作られました。

▶商工会女性部は、積丹産のかぼちゃを使用したスープの無料提供で来場者の体を温めました。



◀青年部のミニ二層台会場では、おでんや焼き鳥などを販売し、すべて完売となる盛況ぶりでした。

# 先輩漁師に支えられ初めての岩のり漁 丹精込めてのりづくり

— 山田孝弘さん（余別町） —

積丹の冬の風物詩、岩のり漁が1月から行われています。

この季節、漁業者宅の軒先では、すだれに張られた岩のりが寒風に吹かれています。

厳寒の海で摘む岩のりは、香り立つ磯の風味が格別ですが、「天然のり」が故にその年の気象条件等により生育が不安定であり収穫量が少ないため、市場

にはあまり出回らない希少価値の高いものです。

現在、町内では約70人が岩のり漁を行っています。余別町の山田孝弘さん（28歳）は、亡くなった父の跡を継ぐため7年間勤めた漁協を昨年3月で退職し漁師となり、夏のウニやナマコ漁に続き初めての冬の岩のり漁を行っています。



今年、岩のりの生育はよいものの時化の日が多く出漁回数は少ないとのことですが、出漁の合図の旗が上がった日は、午前8時から午後2時まで、西河や神威岬の周辺など厳しく冷たい冬の海で専用の道具を使い、岩礁から黒褐色ののりを摘み、腰に結わえた竹かごに入れていきます。摘み取られたのりは、塩水で砂や石を洗い流



のりを打ち、3日ほど天日で乾燥させた後、さらに石を取り除く作業が必要で、母・扶紀子さんのアドバイスを受けながら製品に仕上げていきます。

孝弘さんは「製品の善し悪しを決める石取りは、手間と根気が必要な大変な作業だと知りました。」とのりづくりの苦労を語ってくれました。

孝弘さんが丹精込めて仕上げた干しのは、東しゃこたん漁協生産部に出荷され、『積丹黒のり』として販売されます。



▲漁協生産部で販売される『積丹黒のり』は、4枚入り。数に限りがあります。サイズは3枚入り。原則予約販売。

し「生」で出荷又は「干し」のりとして加工します。

干しのは、天候を見ながらすだれに

## — わが村は美しく—北海道コンクール— 美国・美しい海づくり協議会が受賞

美国・美しい海づくり協議会（神哲治会長）が「わが村は美しく—北海道—運動コンクール小樽ブロック（北海道開発局主催）」において、奨励賞を受賞し、2月13日に小樽開発建設部で行われた授賞式に神会長とボランティアリーダー4人が出席しました。

同コンクールは、地域を活性化しようとする住民主体の優れた取り組みを表彰するもので、同協議会の藻場再生への取り組みが、特産物の生産環境の改善と美しい海という景観の価値を高めていると評価され、この度の受賞となりました。



## 地域の子どもを 温かく見守り

美国駐在所・佐々木敬史所長は、昨年4月に赴任してから約1年。小中学校が休校となる日を除き、雨の日も雪の日も、児童生徒の登校や仕事に向かう人たちの安心・安全を見守り街頭啓発を続けています。



「地域の人や町の様子を知りたい。」と思いはじめた街頭啓発は、美国町中央交差点で午前7時30分頃から行われ、今では地域の人たちとも顔馴染みとなり、地域に溶け込んだ啓発活動となりました。佐々木所長は、「今日の挨拶は元気がないな。叱られたかな？」など、子どもたちのちょっとした変化にも気をつけているそうです。この日も一人ひとりに「おはよう」と声をかけながら、子どもたちを見守っていました。